

糖尿病患者の自己管理行動と QOL の関連性

市川美奈子¹⁾ *、齋藤久美子²⁾、

1) 青森県立保健大学、2) 弘前大学大学院保健学研究科

Key Words ①糖尿病患者 ②自己管理行動 ③QOL

I. はじめに

糖尿病患者は良好な血糖コントロールを保ち合併症の発症を予防するために、生涯を通して食事療法・運動療法・薬物療法などの自己管理を継続していく必要がある。そして、血糖コントロールを良好に保つと同時に日常生活の質 (QOL) も高く保つことが必要である。しかし、自己管理行動は血糖コントロールによって評価されることが多く、教育支援の結果獲得した自己管理行動によって QOL が変化したかどうかはまだ焦点が当たらない現状がある。

血糖コントロールに着目した自己管理行動や QOL については関連性が研究されているが、自己管理行動と QOL の関連性については、研究報告は見当たらず、どのような行動が QOL にどのように関連しているか明らかになっていない。糖尿病をもつ人々が QOL を保持しながら療養生活を送るためにも、血糖コントロールと QOL が良好に保たれるような自己管理行動を獲得し、継続できるように支援していく必要がある。

II. 目的

良好な血糖コントロールと QOL を保ちながら生活できる自己管理を教育支援するための示唆を得るために、糖尿病患者の自己管理行動が QOL にどのように関連しているかを明らかにすることを目的とした。

III. 研究方法

1. 研究対象者：X 県内の糖尿病専門外来へ通院する 20 歳以上の 2 型糖尿病患者に自記式質問紙調査を実施し、回答が得られた 210 名。
2. 調査内容：
 - 1) 対象者属性：性別、年齢、罹病年数、合併症の有無、自覚症状の有無、家族構成、仕事の有無。
 - 2) QOL について：健康関連 QOL 尺度である SF-36v2 (スタンダード版)¹⁾ を使用。
 - 3) 自己管理行動について：木下 (2002) の糖尿病自己管理行動尺度²⁾ を使用。
 - 4) 診療録または糖尿病手帳からの情報：罹病年数、合併症の有無、食事・運動・薬物療法の内容、HbA1c
3. 分析方法：PASW Statistics18 を使用し、Spearman の順位相関係数を用いた相関分析、Mann-Whitney 検定などを行い、影響する要因を探索した。
4. 倫理的配慮：研究者の所属施設の倫理審査委員会、協力施設の倫理委員会の承認を得

*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1 E-mail: m_ichikawa@auhw.ac.jp

て実施した。対象者に本研究の主旨、参加の自由、プライバシーの保護等を文書と口頭で説明し、質問紙返答をもって同意を得た。

IV. 結果

平均年齢 61.0±11.7 歳、男性 109 名、女性 101 名であった。平均罹患年数 10.0±8.4 年、HbA1c7.2±1.1%、糖尿病合併症が 1 つでもある 48 名、合併症なし 162 名、何らかの自覚症状を感じている 99 名、自覚症状なし 111 名、同居家族は平均 2.8±1.5 人であった。就労状況は、仕事あり 105 名、仕事なし 97 名であった。

糖尿病自己管理行動（合計 88 点）の平均値は全体で 60.2±11.7 だった。属性別に比較したところ男女間に有意差があり、男性 58.6±12.4、女性 62.2±10.6 だった ($p<0.05$)。そのため、自己管理行動と QOL の関連性は男女別に相関関係を分析した。自己管理行動 22 項目と、QOL8 項目の相関では、男性は 33 項目、女性は 13 項目で弱い相関 ($r \leq 0.2$) が見られた。

V. 考察

今回の調査において、自己管理行動の実践度は女性が男性に比べ有意に高かったため、自己管理行動と QOL の関連について、男女それぞれに分けて考察した。

男性は自己管理の実践度は女性よりも少なかったが、QOL と自己管理行動との関連では自己管理の実践を実感できると QOL は高くなる傾向にあった。男性は就労している人、調理担当が自分以外である割合が高く、自己管理行動の実践度が少なくても、周囲の協力があることで QOL が高まると考える。このことから、自己管理の実践を認めて実感できるように関わること、周囲の協力が得られるような働きかけが必要と考えられた。

女性は、男性より自己管理の実践度が高くても QOL との関連は少なかった。女性は男性より調理担当する割合が高く、調理の工夫や食習慣などは、自己管理というよりは日常生活における自分の役割と考えているため、QOL と関係しなかったと考える。女性患者への支援として、できている自己管理行動を認めて自信につながるような働きかけが必要と考えられた。

今後は、症例数を増やし、食事療法・運動療法・薬物療法といった治療内容の違いによる自己管理行動、QOL の関連性についてさらに分析を進めていく。

VI. 文献

- 1) 福原俊一、鈴嶋よしみ：SF-36v2 日本語版マニュアル健康関連 QOL 尺度、NPO 健康医療評価研究機構、2009
- 2) 木下幸代：糖尿病をもつ壮年期の人々の自己管理の状況および関連要因、聖隷クリストファー看護大学紀要、10:1-9、2002

VII. 発表（学会発表）

市川美奈子、齋藤久美子：糖尿病患者の自己管理行動と QOL の関連性、第 18 回日本糖尿病教育・看護学会